

3 施策の基本的方向

- (1) 科学的な環境リスク評価を推進
化学物質の有害性に関するデータの収集、化学物質の製造量、用途、排出量、排出経路、廃棄方法等の基礎情報の整備、環境残留状況の把握
- (2) 化学物質のライフサイクルにわたる環境リスクを最小化し、人の健康及び生態系への被害を未然防止
科学的なリスク評価、化学物質が国民生活に与える利益及び予防的取組方法の考え方を考慮
- (3) 環境リスクの現状やリスク管理の取組についての理解を関係者が共有し、信頼関係を高め、関係者が自ら環境リスクに関する判断をするための基盤を整備
リスク評価・管理の各段階での情報公開、環境教育、人材育成
- (4) 国際的な化学物質管理に関する戦略的アプローチ(SAICM)に沿って、国際的な観点に立った化学物質管理